

令和7年度第5回青谷地域振興未来会議 議事概要

日時：令和7年1月27日（木）午後1時30分～4時00分

会場：青谷町総合支所 第1，2会議室

【出席委員】

青木 紗、秋田典昭、井上智朗、浦島考雄、大谷 茜、斎藤智範、田内伸一、棚田 美紀雄、山田由理子

【欠席委員】

小谷峻一、長谷川優、浜野幸子

【事務局】

<青谷町総合支所>

佐々木支所長、田中副支所長兼地域振興課長（併教育委員会事務局青谷町分室長）、
高野産業建設課長、金崎市民福祉課長、山田地域振興課課長補佐

<選挙管理委員会事務局>

有本選挙管理委員会事務局長、田中選挙管理委員会事務局主任

【日程】

1 開会

2 会長あいさつ 田内会長

3 議題

【報告事項】

（1）支所管内における期日前投票所の投票期間の見直しについて （資料1）

<選挙管理委員会事務局>

（2）未来会議意見の対応状況について （資料2）

【協議事項】

（1）地域おこし協力隊について （資料3）

（2）町内案内の外国語表記・海外研修生との地域交流について （資料4）

（3）地域の交流場所の創出（おとな食堂）について （資料5）

4 その他

5 閉会

◎議事概要

<報告事項>

(1) 支所管内における期日前投票所の投票期間の見直しについて

事務局より説明

支所管内の期日前投票所については、選挙期間の長い国政選挙では、序盤の利用者数が限られ、時間当たりの利用者数が極端に少ない場合がある。今後の衆議院議員及び参議院議員の国政選挙においては、鳥取県議会議員選挙と同じ土・日を含む選挙期日前8日間を投票期間として見直すもの。

【委員】投票期間を短縮することにより、予算を確保できるのは良い事だが、どのくらい短縮しても良いかは支所に投票に来ている人の事情・状況が分からないと、判断が難しいと思う。

【事務局】正確な集計は取っていないが、投票に来る人は仕事の関係や総合支所・図書室等に用事があって、そのついでに立ち寄るようなケースが多く、今回の短縮による影響はあまり無いと考えている。

【委員】期間の短縮により選挙に行けないことがあっては不利益になる。

【事務局】基本的に選挙は当日投票する事が大原則であり、期日前投票は事情によりどうしても当日投票できない人が、事前に宣誓書を書いて投票をする制度である。期日前投票所の人員を確保し、持続的に運営できるような方向で考えており、ご理解いただきたい。

【委員】スケジュールの中に未来会議と自治会役員会との意見交換とあるが、今後予定されているのか。

【事務局】総合支所管内では地域振興未来会議が意見交換の場と捉えている。ここで異論が無ければ、議会に説明していく予定である。自治会役員会は報告の場と考えている。

【委員】立会人の負担軽減という話があったが、今後は投票所も縮小していくのか。

【事務局】選挙は当日投票所が最も重要であり、期日前投票所は必ずやらないといけないものではないということから、本市としては青谷地域内にある投票所を廃止しないという前提の元で、今回の提案をしている。

【委員】オンライン投票にはならないのか。

【事務局】期日前投票は既に選挙人名簿をオンラインで管理するなどの運用を行っている。自宅からの投票は現在法律上できることになっており、その理由は「投票干渉」と言って他人が特定の候補者への投票を働きかけるようなことが、自宅だと起こりうるため、現状では難しい。

【委員】期間はそのままで時間を短縮することはできないのか。

【事務局】それは法律上全く問題ないが、一度に全てを短縮するということではなく、まずは期間を短縮してやってみて、課題がまだあるようなら次の段階としてそういうことも考えていかないといけないと思う。

(2) 未来会議意見の対応状況について

事務局より説明

過去の地域振興未来会議で委員からいただいた意見の対応状況について報告する。

- ・地域づくり連絡協議会の情報発信について
- ・賑わいの場活用の住民ワークショップ、アンケートについて
- ・総合支所改修工事について

【委員】地域づくり連絡協議会の参加団体が相互に連携し合うことで、活動内容が密度の濃いものなると思うが、そのような取組を進められないか。

【事務局】連携強化について市から申し入れていきたい。実際の活動内容については、協議会の中で検討いただければと考えている。

<協議事項>

(1) 地域おこし協力隊について

事務局より説明

地域おこし協力隊の取組を検討するため、三朝町地域おこし協力隊 OB の伊藤博文氏にご参加いただき、協力隊の活動や制度について紹介いただいた。

令和 8 年度に隊員の募集を計画していくため、隊員募集の方針および活動方法について、総合支所の検討状況を説明。

【委員】地域資源の出口をどう作るか、というのが取組のテーマだったのか。

【協力隊】町としての課題であり、その解決が目的だった。

【委員】情報発信は域外と域内の割合はどうだったか。

【協力隊】域外が 9 割、域内が 1 割程度。域外にどれだけ情報発信できるかが重要。

【委員】応募のきっかけは。

【協力隊】地元に帰る相談を関西事務所にしていたら、そこで協力隊の紹介をいただき、町と色々話する中で応募を決めた。

【委員】BFO じげへの業務委託は決定しているのか。

【事務局】決定はしておらず、計画案として予算要求しているところ。

【委員】勝部地域に特化しているような印象を受けるが、実際の活動はどうなるのか。

【事務局】地域資源の商品開発は青谷地域全体を想定している。協力隊の活動を考えた時に、地域法人で受け入れしていく事が将来的に地域に根差して活動するためには重要と考えている。この手法が上手くいけば、他の団体法人でも別の地域おこし協力隊を引き受けてもらい、活動を活性化するきっかけに出来ればと考えている。

【委員】地域全体で関わっていくなら、商品開発や販路開拓にはようこそ館も加わった計画とした方が良いと思う。

【委員】協力隊を団体法人で委託する必要性は何なのか。

【事務局】団体へ委託しない場合、支所の直接雇用となるが、協力隊の活動は会計年度任用職員だとかなり制限され、充分な活動ができない懸念がある。重要なのはいかに現場に入って地域の人の声を聞くかであり、業務委託で地域に近いところで活動した隊員の方が、3 年後そこに定着する率が高い。

【委員】勝部地区は鳥取市の中でも少子高齢化が進んでおり、そういう地区から取り組んで行くのも良いことだと思う。

【協力隊】他の自治体では地区ごとに協力隊を呼んでいる所もある。エリアが大きすぎると課題が分散してしまって、3年間では結果に結びつかないケースもあり、何も出来ず中途半端になることもあるので、地域に特化してそれを発信し、他の地域へ広げる方法もある。

【事務局】支所としても今の方針が正解と考えているわけでは無いので、ご意見を参考に計画を修正していく。

(2) 外国人案内および地域交流について

事務局より説明

未来会議の委員提案により、青谷地域における外国人案内と地域交流の課題を整理し、今後の取組を検討するもの。

国際研修施設や和紙体験施設、外国人民泊などへ外国人来訪が継続的に見込まれるが、地域内の外国語案内表示は不十分である。一方、研修生と住民の交流は日程上困難と判断された。

今後は交流よりも情報提供を重視し、来訪者の国籍に応じた外国語選定、案内場所や交通案内の検討、看板・パンフレット・Web等の手法について協議する。

【委員】外国語の選択について、青谷を訪問される外国の方は、ツアーではなくて個人旅行がほぼ中心であり、個人旅行者は中国人でも韓国人でも台湾人でも、英語は読めるので、英語のみで良いと考える。ハングルとか中国語もあるが、同じ中国語でも大陸型の簡体字と、それから台湾とか広東省で使われる繁体字での案内が2通り必要なことになり、看板も足りなくなる。現実的な動態を踏まえて言えば、英語で十分だと考える。

【委員】案内を多言語等で対応するなら、QRコードを付けた方が言語も対応するし看板面積も省略できると思う。看板にQRコードを貼付できるなら併せて、デジタルスタンプラーなども活用できる。

【委員】予算のかからない手法としては Google マップに情報を掲載していけば、新しいアプリを入れなくとも旅行者は大体使っているから情報を発信できる。

【事務局】様々な手法をご意見いただいたので、費用面も含め地域で取り組む最適な方法を検討していきたい。

(3) 地域の交流場所の創出（おとな食堂）について

事務局より説明

未来会議から委員提案のあった地域交流の場について施策を検討するための資料をまとめている。

青谷地域では夜間営業の飲食店が減少する一方、青谷ようこそ館では9月から月1回「ようこそ酒場」を実施し、残り野菜の活用による地産地消とフードロス削減、夜の賑わい創出に取り組んでいる。

支所としても住民交流の場は多い方がよいと考え、既存店舗の活用や地域活性化推進事業の拡充を検討中。今後は候補者とともに内容を詰め、委員からの意見を踏まえながらより良い形を模索していく。

【委員】民生委員として活動する中で、大人が集まれる場が減っているという住民の声を聞き、大人食堂を提案した。子ども食堂のように「食」を通じた交流の場として期待できるが、実施するには誰を対象にし、どのような目的で行うのかを明確にする必要がある。実際に利用されるかどうか、アンケート等で住民の声を把握した上で検討したい。開催頻度は多くせず、目的を持った形で始め、将来的には学びや子ども支援へ発展させることも視野に入れている。今後はコアメンバーを集め、意見を聞きながら慎重に検討した上でスタートしたい。

【委員】お酒も飲めて話が出来る環境はすごく魅力的だと感じるが、地域で帰りの交通が無いことがネック。毎月じゃなく3カ月に1回でもいいので行政サポートで送迎ルートを作って企画できると参加しやすいと思う。

【委員】ようこそ酒場を9月から月1で行ってみて感触としては、想像以上に来てい

ただいてる印象。毎回 20~30 人くらいで、親子連れなども来てもらっている。子ども食堂とはまた違う形で地域に貢献できたと感じている。一方で、高齢の方は帰りが心配になることもある。

【事務局】委員からの意見に感謝するとともに、今後はコアメンバーで検討していく方向性を前向きに受け止めている。改めて委員に声掛けを行い、市の担当者や関係者を交えた協議の場を設けるなど、具体案の作成にむけ調整を進める。委員と一緒に内容や方向性を考えながら進めていきたい。

4. その他

特になし